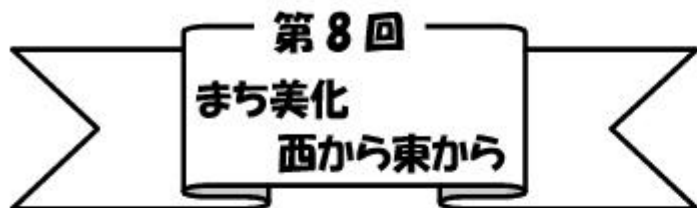


Keep Town Beautiful

全国まち美化連絡会議ニュースレター

VOL.18



まち美化サポート組織の活躍を探る!

美化活動の裾野をどう広げるのか—多くの自治体や美化活動団体が抱えている大きな課題といえます。行政が一方的に呼びかけるだけでは、参加の強制と取られかねない。かといって、活動団体が単独で参加の輪を広げるのにも限界があります。また地域の美化に対するニーズはさまざま。それぞれのニーズによって、スムーズな地域の活動ができるよう、調整すべきことがら・協力を働きかける対象は違ってきます。そのため、最近の美化活動では行政と市民の仲立ち役・市民の相互連携のつなぎ役への重要性が指摘されるようになってきました。

今回の「Keep Town Beautiful」では、「インターメディアリー（intermediary）団体」と称されるこうしたつなぎ役が活躍する都内の美化事例をご紹介します。

勝島運河を花畑に！！「しながわ花海道プロジェクト」（品川区）

お江戸・日本橋を出発して第一の宿場町が品川宿。現在の東京都品川区青物横丁・鮫洲周辺ですが、その少し川崎寄りに、旧東海道沿いに東京湾へとつながる勝島運河があります。釣り舟などの船溜まりとなっている運河です。そこでは、地元商店街が中心になって、「運河の土手に花畑をつくろう」を合い言葉に「しながわ花海道」プロジェクトが展開されています。

●品川区の商店街リーダーが発起人で調整役 ～デカイ法螺は、夢になる～

勝島運河の周りは、高潮護岸となっており、地元住民の散策コースとして親しまれている場所です。緩やかな斜面護岸は、1.5×1.5m程度のマスで区切られています。マスには雑草が根を生やし、利用者によるごみの投棄、ペットの糞なども問題化してきました。

そこで、品川区商店街連合会副会長の綱島信一氏が、「デカイ法螺は、夢になる！」とばかりに、「護岸にある1200近くのマスのすべてに種から花を咲かそう」と周辺に呼びかけました。その呼びかけに地元立会川商店街と鮫洲商店会振興組合が呼応し、「しながわ花海道」プロジェクトは始まりました。

まずプロジェクトでは、実際に花が根付くかどうか実験を行いました。10マス程度を掘り起こし、「キバナコスモス」の種をまき、根付き具合の様子を見ました。この結果、商店街では「いけそうだ」という感触を得たので、いよいよすべてのマスを花畑にするべく、近隣の町内会、関係のある市民団体、PTAなどに声をかけ、説明会を行い、種まき活動への参加をお願いしていきました。

また、商店街では、種やスコップの用意をしたり、日頃売り出しセールなどで手馴れているチラシづくりの腕を生かして、住民へ「軍手」持参での参加を求める案内チラシの制作も行いました。

そうした準備、広報活動の一方で、商店街では関係機関との調整作業も行いました。勝島運河全体で花を植えるとなると、行政手続きなどの面でクリアすべきことが少なくありません。そのため、高潮護岸を管理する品川区公園緑地課に相談を持ちかけ、飾花の許可を得るとともに、種まき後の管理とパトロール、清掃、地域からの苦情の対処、種まき時の安全確保などに関する覚え書きを交わしました。

また、種から花を育てるには、花の種類選定も重要です。東京ディスプレイランドの植栽指導を行っている専門家からアドバイスを受け、手間がかからず丈夫に育つ種類として、「キンセンカ」「ピオラ」を植えることになりました。